防除情報

令和 8 年 11 月 26 日
大阪府環境農林水産部農政室推進課
病害虫防除グループ

キャベツの菌核病に注意！

1 発生状況

（1）令和 8 年 11 月の予察巡回調査において、泉州地域（泉佐野市）のキャベツほ場で菌核病の発生が、見られた。

（2）平年より発生はやや早くから見られ、発生株率がやや多い状況となっている。

表1 キャベツの菌核病の調査結果（発病株率）の平年値との比較

	11 月前半	11 月後半
本年	2.0%	8.0%
平年	0.8%	0.1%

（3）菌核病は地面に近い下葉の基部から発病することが多いため、気づきにくく、防除が遅れがちになりやすい。ほ場をよく見回って発生に注意し、早期発見、早期防除を実施する。

2 生態と被害の特徴

（1）病原菌はイネ科以外のほとんどの作物を侵す。特にレタス、エダマメなど被害の多い作物の後作や、キャベツを毎年栽培しているほ場では特に注意する。

（2）結球期以降に発生する。はじめ地面に近い下葉の基部や葉の縁に水浸状の病斑ができる(図1)。

（3）症状が進むと結球部にも拡大し、白色綿状の菌糸が生じ、やがて結球部全体が柔らかく腐って菌糸に覆われるようになり、被害部分の表面に黒いネズミの糞のような菌核がつくられる（図2）。

（4）菌核がほ場に残ると次作等の伝染源となる。





3 防除

（1）発病株は健全株への感染源となるため、速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

（2）発病株を見つけたら（1）を行うとともに、できるだけ早期に治療効果のある薬剤（表2）を散布する。

（3）病原菌は下葉などの株元、時には結球部位からも感染するため、薬剤防除では株全体に薬液が十分にかかるように散布する。

表2 キャベツ 菌核病の防除薬剤例

登録は令和 8 年 11 月 24 日現在

薬 剤 名	FRAC	効果	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
セイビアーフロアブル 20	12	予防	1000 倍	収穫前日まで	3回以内
ベンレート水和剤	1	予防・治療	2000 倍	収穫7日前まで	6回以内
スクレアフロアブル	11		2000 倍	収穫前日まで	3回以内
アフェットフロアブル	7		2000 倍	収穫前日まで	3回以内
カナメフロアブル 劇	7		4000 倍	収穫前日まで	3回以内
オンリーワンフロアブル	3		1000～2000 倍	収穫前日まで	3回以内